3	中山間地の畦畔法面管理をｾﾝﾁﾋﾟｰﾄﾞｸﾞﾗｽと和牛放牧で
	北船路放牧地（大津市八屋戸（はちやど））

キーワード

- ●侵入雑草除去など畦畔法面管理に不足するマンパワーを和牛放牧で補う
- ●センチピードグラスとの組み合わせで踏圧による法面崩壊は最小限
- ●農耕用に牛を飼っていた記憶もよみがえり放牧牛に愛着

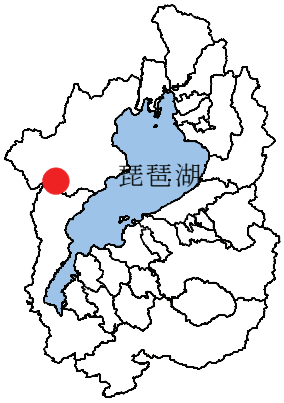
１　地域の概要

大津市は滋賀県の南西部に位置し農地のほとんどが水田で、混住化地域に残された農地、ほ場整備されたまとまりのある田園、そして田上・音羽・比叡・比良山地にいだかれた中山間地域には棚田が集中するなど多様性に富む。

傾斜度1/20以上の農地が管内農地の70%を占め、中山間地域等直接支払の対象面積は県全体の47%となっている。

ほ場整備実施済率は県全体の進捗状況からは遅れているが、南部地域では大区画ほ場整備が複数集落で取り組まれ、棚田地帯でも近年徐々に整備が進んでいる。

気候的には、南は太平洋型気候、北は日本海型気候であり、北部では比良山系から吹き下ろす烈風「比良おろし」がある。



２　集落の概要と取組の背景

北船路営農組合のある八屋戸集落は大津市の北部地域に位置し、集落戸数43戸、耕地面積26.2ha、うち6haが畦畔と法面という中山間地域である。

営農組合は一部の経営受託と作業受託を行い、セーフティーネットとして機能している。

ほ場整備は平成14年に完工し、広大な畦畔法面はセンチピードグラスで覆うことで、雑草を抑え、草刈り作業等の省力化が図られてきた。

しかし近年、管理が不十分な一部の法面では多年生雑草のススキやクズが侵入し、草刈り意欲が減退するほどの状況となっており、営農組合の悩みの種となっていた。

広大な畦畔法面をセンチピードグラスで管理

３　取組の経緯

営農組合の悩みに応える形で、県関係機関からセンチピードグラスは牛の嗜好性も良く、畦畔法面の管理と雑草除去に放牧を活用してはどうかとの提案を行った。

営農組合で検討された結果、直ちに放牧に取り組むことになり、放牧地となる畦畔法面の現地確認や電気牧柵の設置など地元と関係機関が一体となって放牧準備が進められた。

放牧畦畔法面の確認

電気牧柵の設置

風呂桶リサイクルの水飲み場

４　放牧の概要と特徴

放牧に用いられた牛は滋賀県畜産技術振興センターのレンタル牛で、12歳と３歳の繁殖和牛２頭が平成１９年10月23日に運び込まれた。当日は営農組合役員手づくりの横断幕も設置され、期待の高さが伺われる一幕もあった。

放牧地は雑草の繁茂がひどい畦畔法面とスタンチョンや水飲み場を設置するための水田や農道などの平らな部分で構成された。給餌は餌付け用の濃厚飼料を毎日ドンブリ茶碗に一杯程度と鉱塩以外は与えず、放牧は草が少なくなると次の畦畔法面に転牧する形で行われた。

最初の放牧地は入牧後９日目に草が少なくなり、次の放牧地に転牧した。ススキの穂と硬化した茎葉、硬化したイタドリの茎葉、クズの蔓などは残ったが、放牧前に比べると少しの労力で整理できるまでになった。その後、２ヵ所を転牧し合計38日間放牧した。

畦畔法面は最大段差が８ｍと傾斜がきつく、放牧牛の踏圧による法面の崩壊が心配されたが、センチピードグラスのランナーが法面を覆っているため、崩壊はほとんどみられなかった。

入牧を見守る営農組合員

放牧地	総面積（うち畦畔法面）	最大段差	周囲長	放牧日数
第1	687㎡（480㎡）	5m	195m	9日
第2	1，087㎡（704㎡）	5m	166m	10日
第3	2，550㎡（1，050㎡）	8m	218m	19日

入牧前（第２牧区）

入牧後（第２牧区）

取り組んだ農家からは次のような声があった。

〇子供の頃には農耕牛を飼っていたので抵抗感は少ない。

〇入牧前は草刈りに入るのもためらうほどであったが、少し草刈り機を回せばきれいにできるようになった。

〇今回は畦畔法面であったが来年は耕作放棄地での放牧もやってみたい。

５　放牧の効果

営農組合が直面する問題の解決と管内における畦畔法面での和牛放牧の先駆事例となった。同時に、他地域や関係機関などにとって、和牛放牧を身近な技術として認識を新たにすることができた。

今回は放牧時期が遅く、硬化した雑草など完全に除去できない部分があったが、入牧を早めれば一層の除草効果が発揮されると考えられる。

今後は人手が不足するため管理が行き届かない中山間地域や獣害に悩む地域などの同様の悩みを抱える集落等への普及が期待される。

執　筆　協　力・問い合わせ先
滋賀県農政水産部農業経営課　大津地域経営指導担当　蒲原
Ｔ　Ｅ　Ｌ：077-522-3736